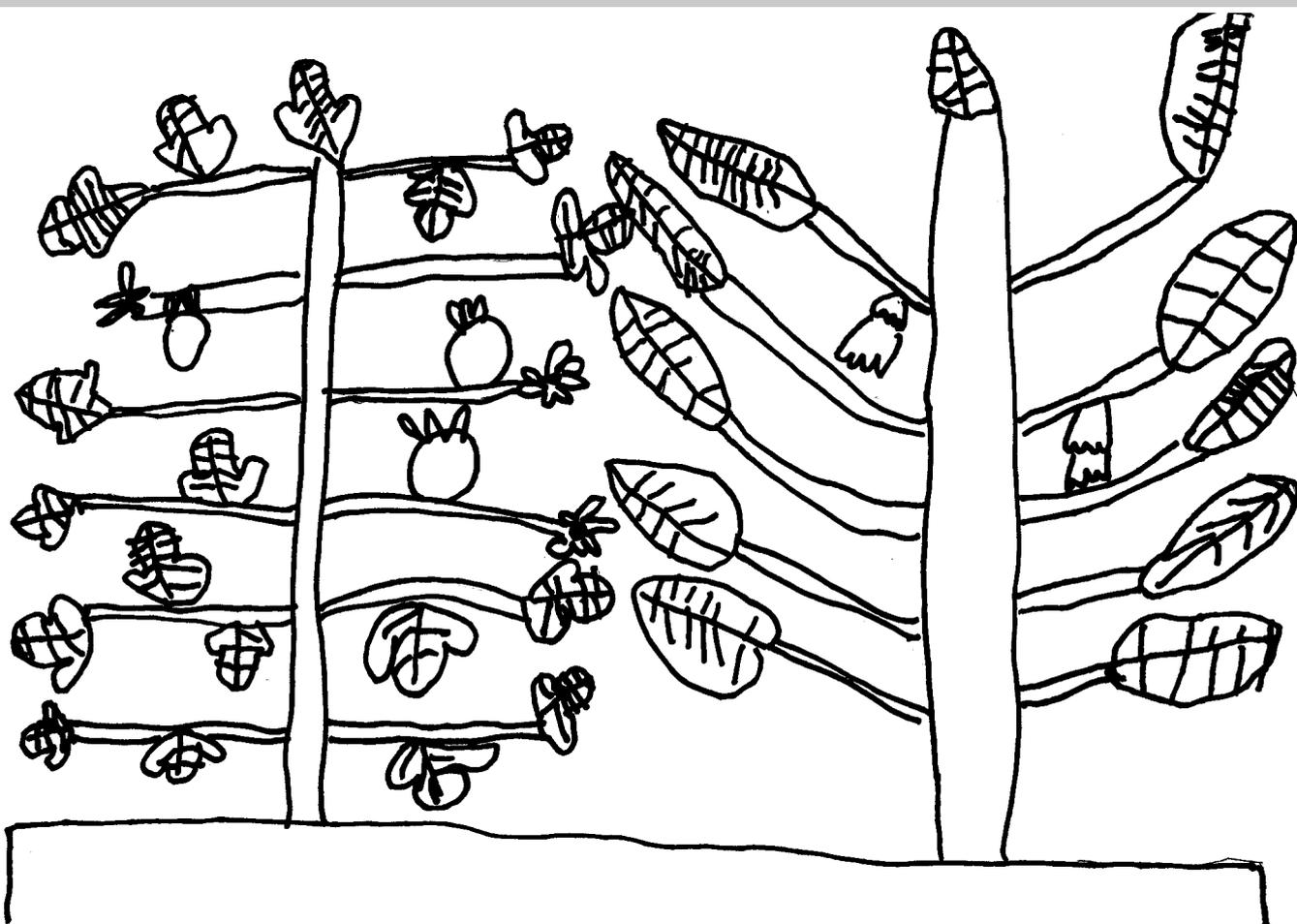


保育北九州

平成26年7月1日
発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019 北九州市八幡東区
中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話 (093)661-2153番
発行人 平 沢 茂
編集人 日 野 真 人

2014 176



(5歳児の作品)

おおきくな~れ! 夏野菜!

(提供 小倉北支部)

表紙	1
視点・北九州市保育士会結成四十周年	2~3
仲間たち	4~5
研修報告	6~7
雑感・編集後記	8

視点

今、育てるべきは？

「神経が健全で強靱、困難に打ち勝って疲れず、自己の信念に従って初心を貫ける人間を育てる。」これは、日本の幼児教育の父といわれた倉橋惣三が、大正末期から昭和への激動期に求めた人間像である。

一見的には、集団的自衛権行使について「批判を恐れず自己の信念を述べよ」とする安倍晋三首相の人間像と重なるようである。が、しかし、倉橋の誠実で温かい魅力と、そのプレゼンテーション力は、決して一人よがりではなく、異なる意見や信念をもつ人々を説得し、強い共感と合意を形成し、その論（保育への熱い思い）は、今も強く生きています。

さて、来年から慌ただしく実施される子ども・子育て新制度であるが、一元化をめざすといいつながら三つ目の施設を設置する必要が未だ理解できない中に「教育・保育要領」が告示された。しかし私には「次代を創る子どものため」のものとは全く思えず、もし、いま倉橋がいたら、どう思うか知りたいものである。

「教育を包含する保育という語」を、殊更に「教育と保育」と並列させ、標準時間十一時間中、学校教育時間以外の「保育」と呼ばれる時間帯については僅かな字数しか述べられていない。

私たちは、精神発達の基礎が育つ乳幼児期、その心の育ちを重視してきたが「子どもの最善の利益」を謳いながら「子どもの心の育ち」は視野の外、単なる労働政策以外の何ものでもなく、学校教育の連続性のみが強調され、保育改革の核に置くべき「子どもの心の育ちの連続性」には触れられていない。

北九州市保育士会結成四十周年

不惑の年に問われる 保育の真と真

北九州市保育士会

会長 北野久美

昭和四十九年 北九州市が保育所整備の拡充を図り二万二千人保育に到達、保育従事者研修の取り組みを始めた時期に、それまで各区で活動を展開してきた保母会が「北九州市保母会」（当時）として結成されました。

保育所連盟が五市合併に伴い「北九州市」となったことを機に誕生した「北九州市保育所連盟」の発足の十一年後の結成です。から今年の十一月二十九日で四十歳を迎えます。

「もの考え方などに迷いのないこと」と言われるこの不惑という年に今まで築かれてきた組織を振り返り、さらにその基盤の上に今後の方向性や課題についても考えてみたいと思えます。

【北九州市保母会当時の誕生から】

「保育士会の真」

「児童福祉の向上には保育関係者の組織化が必要であり、組織は力なり」を大切に組織

（当然その仕事に携わる保育者の地位の向上にも連動）

- ② そのためには、保育の仕事に責任を持ち、自らの資質の向上に努める。
- ③ 北九州の保育事業に公私の差があつてはならず、そのためには園長と保育者の共通理解と協力によって推進することが必要である。

された北九州市保育所連盟は、五十年を経て、もなお、公私を問わず、思想信条に拘らず北九州市の未来を担う子どもを大切にしようという想いで保育の充実・向上を目指しています。

その連盟の内部組織ではありませんが、定款の第六章に「密接な連携の下、事業実施を支援するほか、設置の趣旨に従い自らの会則を定め独自の事業を自主的に運営するものとする」と謳っているように、結成当初から保育所連盟や行政と連携しながら主体的に活動を展開してきました。

すべての活動のテーマは、発足当初から十五期二十九年にわたり組織を牽引して下さった初代会長藤岡佐規子先生が明確に示されています。

① 民族の根っこを育てるといふ保育の重要性について社会的承認を得ること。

これらの想いを二代目会長であり、長年副会長として藤岡先生と絶妙のコンビネーションで組織の充実を図られた北野一恵先生が、仲間たちの情熱や努力をさらに引き出され「組織は人なり」を実践の中で体現されました。

平成十九年にそのバトンを託された私は、

当市保育士会も「指導頂いている鯨岡峻先生が保育通信六月号に「子どもを温かく包み、子どもの思いを受け止めて、子どもが安心して、まわりに信頼をよせ、自己肯定感が立ち上る機会を常時、得られるような大人の関わりこそ就学後も求められる養護」と述べられているとおり、養護と教育の一体化した営みが保育なのである。

働けモード全開、経済最優先路線を、ひた走って来たプロセスの日本社会で、いま、子どもたちの抱える心の深刻な状況、その結果発生している悲惨な数々の事件を社会・政治はどう受け止めているのだろうか。

現在育てられている者が育てる者になり、介護する者が介護される者になる三十年後を展望した時、子どもの心の充足を顧みもしない新しい保育制度がもたらす結果に背筋が凍る思いを抱くのは私だけであろうか。

学力テストの結果だけを求める教育のあり方に、かつて学んだ玉川大学の故小原学長が説かれた「神なき知育は知恵ある悪魔をつくる」という言葉がしきりに頭に浮かぶ。

三党合意の新制度の趣旨の冒頭に、「保護者が子育てについての第一義の責任を有する」とあるが、野沢正子先生の「さくら風の歌」という歌集から三首を引用し、子どもの心の叫びに耳を傾けてと願うものである。

- ※ ママはまだ？ / 暗闇見つめて動かない
- ／ 園児に並び寄り添う保育者
- ※ 存在を / こんなに危うくしたのは誰
- ／ 母の抱擁を奪いしは誰
- ※ かくの如く / 育てし大人の責は問わず
- ／ 少年に求刑の罪の深さよ

藤岡 佐規子

中村尋子副会長の英知と経験、黒田玲子副会長の冷静な判断力と、公立の立場で提言していただける山田智子副会長はじめ役員の方の責任感あふれる各部活動に支えていただきながら結成当初から築き上げられた理念や組織のシステムを大切に活動展開しているところです。

【今、そしてこれから】 ～保育士会の新～

大きな節目の五十周年に向けたこれからの十年を考えたとき、これまでのような活動が出来るのだろうか、前向きでポジティブシンキングの出来る私ですが不安が大きい現実があります。

社会情勢のうねりとも思える変化に伴い緊急経済対策に端を発した保育制度の大きな変革が、数か月後に迫っています。

私たち保育士は子育て・子育て・親子支援の最前線で、何万年経っても変わらない子どもが一人前になるプロセスの中で、その育ちに視点をあてて子どもの育ちにとりわけ0歳から就学前までに絶対に見失ってはいけない大切な保育を積み上げてきました。「出版」という形で残したものだけではなく、総会資料にも掲載しているように現場からの疑問や現状から出た課題に対してのきめ細やかな調査や分析も客観的に行い、時には頑固なほどに、この程度でいいという妥協や諦めの一切無い活動を継続して行っています。

さらに、保育の専門性や重要性の認識、浸透も込めて子育て電話相談や各区持ち回りの育児教室、全国実施の一日保育士体験活動や体験者懇談会を実施してきましたし、保育の中身がわかるようにと作成したDVDの活用、大型ヴィジョンでの保育士の日アピール等広く市民に向けても発信の方法を模索し、検討し、実行ー受け身の体制ではなく常に学び続ける実践者としての存在であると自負して積極的に活動しています。

しかし、「子ども・子育て支援新制度」が施行されると、施設としての混乱は行政の手立ても含めて否めないと思いますし、それに伴って《保育教諭》という立場が出来ることで、保育士たちにも戸惑いが生じるかもしれません。

時流に沿った柔軟な保育展開ができるようにと、しなやかな気持ちで臨んでいますが、今まで積み上げてきた保育や組織が、外から壊されていく感が払拭できないのです。しかし視野を広げ視点を変えると、逆に、これまでの取り組みが整理でき活かされる時期が来たとも取れなくはありません。

これまでの子育て家庭の幅広いニーズに子どもの育ちを軸足に対応してきた実績と、低年齢児(0～三歳児)の受け入れを全国レベルでも早くから実践し、特に0歳児の発達研究に取り組み八年がかりで保育計画や保育方法の改善を図ったスキル等もあります。どんな時代が来ようとも、私たちが黙って

黙々とやれば良いのではなく、社会一般を巻き込んで啓発していかないと……という思いを新たにしています。

不惑という表現のほかに、四十歳には強仕という言葉があります。智力、気力ともに充実している年齢だそうですが、一方で「年四十にして悪まるるときはそれ終らんのみ」人間は四十歳になると分別を持たねばならず、人に怨まれるようでは、見込みはないとも言われています。

五十歳までの十年を知命として天からの使命としての実力をつけるのか、それ終わらんのみとされるのか、この十年いや、この二～三年が正念場と言えるのではないのでしょうか。

これまで同様、北九州市保育所連盟、行政、私立保育園連盟と歩みをと共に進めながら、「子どもを育ていのちをまもる」ことを第一義として活動展開したいと考えています。今後も保育士会活動に温かいお見守りをお願いいたします。

お知らせ

十一月二十九日(土)
リーガロイヤルホテル小倉にて保育士会結成四十周年記念講演会・式典・祝賀会を開催いたします。



◆病児保育室

今回は保育園の子どもたちもお世話になる事が多い病児保育室りんご（よしだ小児科医院・小倉北区馬借）同じくわんぱくキッズ（えびす子どもクリニック・小倉北区井堀）の二施設を訪ねました。

★病児保育室

「りんご」より

病児保育室りんごでは、全国病児保育協議会福岡県支部長をなさっている笑顔の素敵な院長先生にお話を伺いました。

Q. 病児保育を始めた経験をお聞かせ下さい。

A. 国の施策として十万人に一ヶ所の病児保育室を設置するということと、北九州は百万都市だったので現在九カ所出ています。一番初めにできたのが八幡西区の黒崎病児保育室（吉田小児科医院）次いで、小倉南区佐藤病児保育室が立ち上がり、二〇〇七年一月より病児保育室りんごがスタートしました。

A. 平成二十六年十月より二ヶ所増え十一カ所になる予定です。

Q. 利用者はどのくらいいますか。

A. 一日の平均45人です。同じ方の利用者も含んでいます。また土曜日の利用は少ないです。

Q. 年間の延べ利用者は、一〇〇人程度です。

Q. 年間通して一番多い月と少ない月を教えてください。

A. 一番多いのは年末から春先にかけてです。逆に少ないのは八月九月です。

Q. 職員数はどのようになっているのですか。

A. 子ども二人に対して保育士一人・看護師は十人に対して一人（兼任）です。

Q. 病気の種類は今と昔では変化していますか。

A. 昔は季節性がありましたが、今は一年中いろいろな病気があります。

Q. 給料体系や勤務時間等を教えてください。

A. 昔は季節性がありましたが、今は一年中いろいろな病気があります。給料体系や勤務時間等を教えてください。



A. 下さい。

A. 保育士の給料体系は保育園の保育士と同じです。土曜日は交替で休み、ローテーション勤務です。

また、「これから先は、医療保育士（外来も見られる保育士・看護師でなくても出来る仕事を行ってもらう）時代になってきています。全国病児保育協議会が主催する講習を受け病児保育専門士という資格を取る事ができる様になるのでは……」という情報も頂きました。

《スタッフの方にも

Q. 具体的に伺いました。一日の流れはどのようになっているのでしょうか。

A. 八時三〇分から十七時三〇分まで、利用のキャンセルは当日七時三〇分までに連絡してもらいます。

Q. 医療ケアとしてどんな事をされるのですか。

A. ぜんそくのお子さんなどの吸入や投薬です。

Q. 登園時と、帰る前二回院長先生が診察を行っています。

A. 感染症のお子さんがある場合はどうされているのですか。

A. 病気によっては隔離して、保育士を一人つけます。また熱があっても元気であれば三人を保育士一人で見えています。

Q. 食事・おやつはどうされているのですか。

A. 基本的にはお弁当で水分は持参です。またおやつはのど越しの良い物、くだもの等を各自で持参しています。

Q. お弁当を忘れる方の中にはいますので、簡単な食事も用意しています。

Q. 病児はどのような遊びをしているのですか。

A. 小学生とか月齢の高いお子さんはワークブック・塗り絵・かるた・折り紙などを年齢に応じて行います。

Q. 一番大変な点はなんですか。

A. 母乳を飲んでるお子さんへ、栄養や水分補給の為にいろいろ

行います。

Q. 一番大変な点はなんですか。

A. 母乳を飲んでるお子さんへ、栄養や水分補給の為にいろいろ

行います。

Q. 一番大変な点はなんですか。

A. 母乳を飲んでるお子さんへ、栄養や水分補給の為にいろいろ

Q. 与えようとしても摂取してくれない時ですね。
 A. 一番心がけていることはなんでしょうか。
 Q. それぞれの病気があるので他のお子さんに感染しないように、細心の注意を払っています。子どもたちが安心して居られる場所であることです。

★病児保育室
 「わんぱくキッズ」より

えびすクリニック横のマンション七階の一室、経験豊かな看護師一名、保育園での保育経験のあるベテラン三名と新人一名の明るく優しくテキパキと仕事をなさっている五名のスタッフの方にお聞きしました。

Q. 利用定員や日時、子どもの年齢など教えてください。
 A. 定員は六名、二か月から小学校三年生までです。利用時間は平日八時三十分から十七時三十分、土曜日は十五時まで、日曜日・第二土曜などは休診です。また木曜日は午後十二時三十分まで、子どものいないときは布団やおもちゃの消毒や入れ替え、環境整備、玩具、ベッド等の安全確認など行っています。
 Q. 一週間のうち利用者の多い日は

A. いつですか。
 A. 一番利用者が多いのは火曜日ですが、当日予約が多いのは月曜日です。
 Q. 預けていて異常があり診察する場合、料金は発生しますか。
 A. いいえ、発生しません。
 Q. 比較的元気なお子さんはどんなことをして遊んでいますか。
 A. 年齢に応じた遊び、例えばパズルや絵本作り、ぬり絵、カルタ等、個々に好きな遊びを事前に準備しています。
 ※食事・おやつに関してはりんごさんと同じでした。

看護師・保育士の目線で語って頂きました。

《看護師》

子どもの状態により安心して、ゆったりと時間が過ごせるように、病児の症状（病状の急変の有無、投薬や処置後の変化、食事等）を看ます。

スタッフ同士が仲良く連携を取っていないとうまくいきません。何かあったらすぐにクリニックのスタッフと連絡を取り合い、一階のえびす子どもクリニックで必要に応じて診察・検査・処置ができるようになっていきます。看護師は専任です。また、一人ひとりの思いに十分寄り添いな

がら過ごし、不安な気持ちに共感していくことを大切にしています。

《A保育士》

病気の時には保護者が休める環境が子どもにとっては、一番理想ですがなかなか難しいですね。保護者の方が安心してお仕事や用事ができるように努めています。その為には、お迎え時には、丁寧にお話したり、途中経過報告の電話も受け付けています。子どもに対しては、少しでも安心できる場所だとわかってもらえるように、抱っこやおんぶをしてスキンシップを大切にしています。1対1で関わる方が早く泣き止み、安心してくれるようです。

《B保育士》

「一時保育的要素の上に種々の病状を呈する児」が対象なので異常の早期発見に努めながら、病状に合わせた保育をしています。ですから、緊張はしますが子どもは悪くなるのも早いけれど、治るのも早いので午後から笑顔が見られたり、食事を摂るようになったり、次の日には、遊べるようになっていたりすると、喜びも大きく、達成感と充実感を感じながら仕事ができています。

《C保育士》

子どもが「またね」と言ってくれるのは嬉しいのだけれど…。「またねー」じゃないよ、「元気でね」と言っています。最後の言葉を聞くと全力でやりきった感が心地よ

い疲れとなり、明日も頑張ろうと思えます。
 保育園では少人数で、一人ひとり、ゆったりじっくり関わる事が難しいのですが、それが出来る充実感は大きなやりがいとなっています。



《インタビューを終えて》

どちらも働く母親や病気の子どもにとって安心して過ごせる居場所を提供して下さっている病児保育室であり、子どもたちの為に一生懸命に丁寧な関わりを行っているスタッフの方々のプロ意識に敬服いたしました。

研修報告

指導計画研修会に参加して

五月八日、レインボープラザにて、北九州市保育士会副会長の黒田玲子先生を講師に「指導計画研修会」が行われました。私は保育士になって二年目ですが、指導計画の作成にあたって、悩んだり疑問をもつたりして、時間がかかってしまうことも多々あります。



研修会では、保育の友に記載されている指導計画が、会議で添削を重ねて作成されているということをお聞きし、表現の仕方や記載順などがどのような理由で変更されたのか見比べていきました。その中で、子どもの課題や目標が目に見えにくいような指導計画を立てるためには、具体的な表現や適切な言葉選びが必要不可欠であることを感じました。また、子どもの様子を文章にし、指導計画を作成することが、発達の状況

を再認識し、保育について考えを深める時間になることがわかりました。今回の研修で学んだことをもとに、保育に生かしていける指導計画の作成を心がけていきたいと思います。

折尾保育所

北 関 沙 樹

スーパーバイザー研修会に参加して

五月二十七日にスーパーバイザー研修会に参加させて頂きました。



午前中は「保育士を支えるスーパーバイザー」と題して植田寿之先生の講義がありました。

した。スーパーバイザーとは、人材育成と人材活用を目的として明確な目標を掲げスーパーバイザーによって行われるスーパーバイザーの成長を支援する、またその体制を整えるプロセスで職員間が仲間意識を持つて支え合い、育て合う事の大切さを教えて頂きピアスーパーバイザーの必要性を強く感じました。「職員の気づきをサポートする」という専門的援助関係のDVD視聴で、より一層イメージする事ができました。

午後からは、グループワークで事例を出し合っのピアスーパーバイザーの実践を行いました。事例を明確化し客観的に見る事により今後の見直しをつかみ、むき合っていく力となる事を学びました。

課題「スーパーバイザー実践報告書作成」に向けて取り組んでいきます。

到津乳児保育園

江 口 美由紀

第57回全国私保連研究大会に参加して

参加分科会

朝ドラ「あまちゃん」ロケ地めぐりと

北リアス線乗車

朝ドラの「あまちゃん」を全く観ていなかった私でしたが、三陸鉄道に惹かれ、また、津波により甚大な被害を蒙った沿岸部が今どの程度まで復興が進んでいるのか、その現状をこの目で確かめたかったこともあり、この分科会に参加しました。

鉄道には、久慈駅から乗車し、珍しいお座敷車両に乗ることが出来嬉しかったです。当日は、この地特有の「やませ」という気象状況（東風により気温が低下する現象）により肌寒く、さらに薄曇りというあいにくの空模様でしたが、安家川橋梁からの眺めは驚くほどの素晴らしさで、まさに「見え見え」でした。晴れていれば遠くのお山々まで見渡せ、さらに美しい光景であったことでしょう。

しかし、それまでの道中では、家屋の基礎のみが残っている所や、防風林がほとんど流されボツ、ボツと立っている木、飲みこまれて破壊された防波堤の跡等々、津波の痕跡が到る所に残っており言葉を失いました。まだまだ復興が進んでない現状を実感しました。



バスガイドさんが、この震災を忘れないことを、被災地で見たいことを伝えることが一番の復興支援になると。そしてなによりも災害に対しての備えが必要と言われている。

たことが強く心に残りました。被災地のみならず一日も早く心からの笑顔を取り戻せるようにと切に願ったことでした。この分科会は、私にとって生涯忘れることの出来ない意義深い研修となりました。

専城乳児保育園

橋 本 寿 子

☆新編集委員紹介☆



新編集委員です。よろしくお願致します。

新門司保育所

喜多島 克子

支部近況

第2回 門司区篇

一、はじめに

門司支部には十八の保育所・保育園があります。大きく分けて門司港地区と大里地区の2ブロックに分かれています。五月の総会で、平成二十六年度の体制が承認されてスタートしました。毎年、総会後に恒例の「教養講座」が開催されています。これは支部の特徴の一つです。毎回、この講座に参加して学び事を楽しんでいる保育士が多いと聞いています。今回は、幼児教育専門家の「熊丸みつ子先生」が登場されました。教養講座が始まると総会と同じ会場と思えないくらい和やかな風が流れ、声を上げて笑う人や隣り合わせた人々にこやかに顔を見合わせるなど、始終笑顔に包まれていました。まさに、「私達職員が「元気になる講座」だと言えます。お礼の拍手が鳴り続く中、講座が終了しました。年度初めに全園参加の職員研修を、毎年、企画・実施してきた支部の執行部の方の工夫を感じます。一人一人が、「参加してよかった。」と思えるような研修を積み上げてきたことは門司支部の中で確実に力になっていると言えます。

二、門司支部の「宝物」のひとつ

西光保育園の西敏昭園長先生は長年、門司支部の支部長をされています。支部をひっぱり、導いてまわっています。今回、この紙面で「門司支部の近況」というテーマで書くにあたり相談したところ、にこやかな笑顔で質問に答えていただきました。以下は、西支部長にお聞きしました。



Q1. 支部長として、今年度の目標はどのようなことでしょうか？

門司支部長を任されて、十二年目に入りますが、役員や各保育所

(園)の先生方が何事にも快く協力してくださいますから、目標は余り持ったことはありません。門司支部は歴代の支部長より培ってきた、公・私立が隔てなく支え合い協力してくれまますので困ることはなかったですね。

聖徳太子のお言葉ですが「和を以て貴しとなす——十七条憲法」

「意味は何事をやるにも、みんなが仲良くやり、調和していくことが最も大事なことであるという教え」を大事にして日々支部長として取り組んでいます。

Q2. 支部長として、大切になさっている事を教えてくださいか？

組織・支部では「協力・協調・協和」を心がけています。又、何事にも全責任を持って、進めて行くことでしょうか。皆さんと一緒に取り組み、行動し、活動の和を広げて行きたいと思えます。

三、門司支部のもつひとつの「宝物」

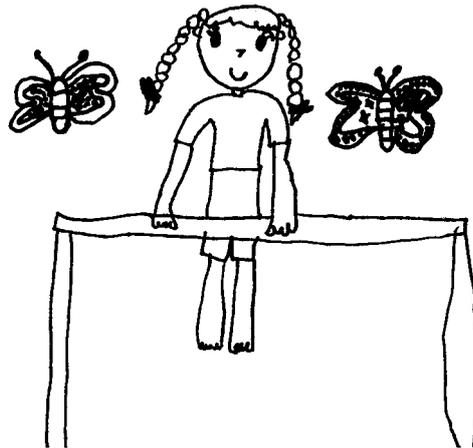
それは、「公開保育」です。支部の保育所・保育園で毎年度、二カ所ずつ順番に行っています。

「公開保育」には全園から二〜三名ずつ参加し、保育を見せてもらう参加型です。該当園にとっては準備を進めていく中で、少し気が重いと感ずることもあります。

「公開保育」当日、保育をする側も見せてもらう側も、少しでも保育活動の仕方を学ぼうと熱心な様子が見られます。終了後に、実施園側から「公開保育」を迎えるまでのエピソードが話され、参加者一人一人が感想を伝える意見交換会があります。実施園の先生方は参加者からの言葉に、取り組んで良かったという表情に包まれて終了します。参加することにより学び支えあっていることを実感します。これが、門司支部で長い間継続してきた所以だと確信しています。これからも、この「宝物」が続く事を願います。

四、むすびに

地域への発信の場として、門司港レトロ地区で今年も「保育まつり」を予定しています。保育所・保育園を身近に感じてもらい、マップ紹介を見て「近くに保育所(園)がある」と知ってもらい、「見学してみよう」と思う人が一人でも増えていくことを願っています。定例の施設長会で施設長同士が顔を合わせて、意見交換し学び合い、育ち合いをモットーにして共に歩んでいく姿勢を大切にしていきます。門司支部、益々、西支部長を中心にまとまっています。



鉄棒大好き♡

(5歳児の作品)

雑感 『みんなちがって、みんないい。』

山々の緑は、葉を落とし厳しい寒さにじっと耐えてきた木々が、初夏のエネルギーに満ちあふれた陽光をいっぱい浴び、命あることの喜びをからだ全体であらわしているように、それらを見る私たちにも、生きる希望と喜びを感じさせてくれます。

この春、入園・進級した子ども達も園での生活にすっかり慣れ、緑に囲まれた園庭で思い思いの遊びを楽しんでいます。走り回る子もいるし、遊具を楽しんでいる子もいます。ダングムシを見つけ、容器に入れて「先生、ほら」と得意げに見せに来る子もいます。

その中でも、砂場遊びはこどもたちの大好きな遊びのひとつです。何人ものこどもたちが、顔を真っ赤にして、一生懸命穴を掘ったり、砂を盛り上げ大きな山を作ったり、型抜きしたお菓子を作り、「ねえ、先生食べてみて」と、思いきりそれぞれの遊びを楽しんでいます。

ところで、随分前のことですが、ある研修会で童謡詩人金子みすゞの話聞いたことがあります。

それまで、みすゞのことはよく知らなかったのですが、研修会でみすゞの詩の光りと影、表と裏、その優しさに触れ、すぐに本を買い求め

ました。家族でみすゞのふるさとの山口県仙崎町を訪れたこともありま

す。みすゞの残した詩の中に、よく知られていますが、

「わたしと小鳥と鈴と」という詩があります。

私が両手をひろげても、

お空はちつとも飛べないが、

飛べる小鳥は私のように、

地面を速く走れない。

たくさんの唄は知らないよ。

鈴と小鳥とそれから私、

みんなちがって、みんないい。

この詩でみすゞは、一人一人はひかり輝いている大切な存在だと語っています。

またある経文にも、極楽の池に咲く蓮の花は「青色青光」「黄色黄光」「赤色赤光」「白色白光」「微妙香潔」であると説かれています。様々な色の蓮の花が、それぞれ自分の色を精一杯輝かせ、本当に美しい光景となっているということなのです。

今日も、園庭で遊ぶこどもたちは、一色ではなく、たくさんの色が混ざり合って、それぞれ命の輝きを見せてくれています。

初夏の陽を浴びて元氣一杯です。

松美保育園

松山 真道

編集後記 一働く幸せ一

平成26年5月30日の読売新聞朝刊に、「働く幸せを守りたい」と題したコラムが掲載されていた。日本理化学工業会長である大山泰弘さんが書かれたものである。大山さんの会社では1960年から知的障がいを持たれている方を雇用し始めたそうである。特別支援学校の先生から「せめて働く経験だけでもさせてほしい」と依頼を受けたことがきっかけであったそうだ。そうやって雇い入れた二人の15歳の少女の勤勉さに胸を打たれたと書いてありました。なぜそこまで熱心に働くのか疑問に思っていたところ、ある住職さんから「人間の幸せは物やお金ではありません。人間の究極の幸せは『人に愛されること』『人にほめられること』『人の役に立つこと』『人に必要とされること』の四つであり、働くとは本当の幸せを求める人間の証なのです」と教えられたそうです。われわれ保育者も、みなさんの「働く幸せ」を守る一助となっていればとても嬉しいことです。

「保育北九州」編集長 日野 真人